

新型コロナウイルス感染症対策のために
村民の皆様へ

診療所急告

昭和村国民健康保険診療所長 今井一男

今や日本いや世界を騒がせている問題、新型コロナウイルス感染症について診療所よりご連絡です。

昨年末に中国の武漢から始まり、世界中に広がる感染症(パンデミック)になるまで、ほんの三ヶ月という短さです。一ヶ月前、福島県の感染者は一人でした。2週間前も二人でしたが、その後4月になって一気に増え4月12日現在37人となっています。総数はまだ少ないのですが、倍加時間は東京より多く今後、決して安心はできません。

このウイルスの疫学は大体わかっています。大まかに言って、感染した人の約半分は症状がなく、本人は気がつきません。また感染した人の約40%は風邪症状で済んでしまいます。そして残り10%が悪化して、2%が重篤化して、0.5%が死に至ります。これだけを見るとウイルスとしては比較的には中等度のウイルスで、それほど心配するほどではない様に思えます。では世界がこれほどの騒ぎになるのは何が問題なのでしょう。

ポイントの一つは感染しない様に防御することが難しいということがあります。このウイルスは発症してから、普通の風邪症状が1週間ほど続き、症状も軽く、特に医療機関を受診してから、診断まで多くは5日から10日ほどかかっており、おそらく感染している状態から、検査で陽性になるまで2週間くらいはあると思われています。特に感染した人で症状のない人でも人にウイルスを移す能力があるということも知られています。このため、医療従事者の感染が多いことも特徴的で、武漢でも院内感染が40%を占めていたとも言われています。現在の東京の感染の増大も病院がクラスターになって広がったと話す識者もいます。症状のない人や、ただの風邪症状の人でも感染力があることを考えると、ほとんど医療従事者の感染は防ぎようはありません。ですから、病院に行って感染して帰る人もかなり多いと言われています。病院が病気になる場所ということになっているわけです。そして病院から感染者が出れば、外来が閉じられたり、医師を含めてスタッフが罹れば、休まざるを得ず、医療資源が少なくなり、他の病院に殺到することになります。平常時でも、都市の病院は外来の待ち時間が長く、また入院するのに普段でもベッドが足りないことを考えると患者が増えれば医療崩壊は簡単に起こってしまいます。

世界で問題になっているポイントの二つ目には集団免疫ということがあります。これはイギリスやドイツの首相が国民に話しているものの、我が国ではまだ十分に国民に知らされていないことです。世界の疫学者がほぼ全て同意していることですが、今回のように世界に広がったウイルスは消滅は不可能で、大体40~60%の人が感染もしくはワクチンによる抗体を持たない限り感染症は收拾しないということです。つまり多くの人が感染しないと終わらないということなのです。個人としては罹りたくないが半分以上の人がかからないと終了しない。ワクチンができるのは早くても1年半はかかると言われており、それまでは個人の合理的判断と社会の合理的対処は対立するわけです。合成の誤謬と言われます。今日本が目指しているのは、医療崩壊にならないように、感染をコントロールすることです。感染が増えてくれば人の交流を抑えて、クールダウンするという方法です。

さて昭和村の話に戻しましょう。今回、中国、韓国がうまくほぼ克服できたところは、個人認証をしっかりと、追跡、調査がしっかりできたところ。一方欧米の先進国では人権との絡みもあり、個人認証は困難です。では昭和村はどうかと言えば、人の動きは少なく、個人認証はかなり人権を制約しなくても可能です。このため情報は比較的他の

裏 面 あ り

地域に比べ収集しやすく、クラスターのレベルでコントロールできる可能性があります。また、昭和村は都市からの時間的、空間的距離もあり、ウイルスが入るのには時間が他の地域よりはるかかと思えます。可能な限り、流行する時期を遅らせて、ワクチンや効果のある薬の開発まで、時間を稼ぐことが必要かと思えます。

いずれにしても、昭和村に一人もコロナウイルスに感染した人を入れないというのは前に書いたように、現在の社会では不可能と考えられます。昭和村は老人が多く、人口構成も他とは異なっており、重症化する割合も補正しなければなりません。流行すれば影響はかなり他に比べて大きいと思われれます。大事なことは入ったときにしっかり情報を持って管理していくことです。その場合、感染した人を非難したり周囲から排他的にすれば、感染した可能性のある人はそれを見て隠すことになり、情報が入らず経過が追えないため、爆発的な流行になる可能性もあります。誰もが感染する可能性はあり、もし自分が感染したらと置き換えて考えて、村全体が寛容になり発症してしまった人をみんなで支えることが大事です。地域の中での信頼関係がこの感染症に立ち向かうための最も有効な手立てであるということです。

最後に何よりも大事なことを付け加えたとしたら、手を洗うということです。何か質問や意見があれば直接ご連絡していただければと思います。

最後にまとめます。

- ① 今回の新型コロナウイルスは中等度の強さで、それほど恐れるものではありません。
- ② 感染して症状がない人でも人にうつす可能性があり、また潜伏期も長く感染をコントロールすることは難しく、村にウイルスを入れないことはほぼ不可能です。
- ③ さらに言えば、半分近くの人が感染もしくはワクチンによる抗体を持たないと、流行は収まりません。
- ④ 感染の速度をできる限りゆっくりにして、ワクチンや効果的な薬が開発されるまで、時間稼ぎすることが必要です。
- ⑤ このためには、昭和村で長く培われてきた信頼関係を大事にして、不安に囚われることなく、感染した人を排他的にしたりしないで、この感染症に立ち向かうことが必要です。

～ 今後の診療体制 ～

○風邪症状で受診される方は必ず事前に電話連絡をお願いします。直接来ないようにしてください。

(発熱が続く、強いだるさ、息苦しさ、喉の痛み・違和感、せきなどの場合)

電話等で医師が症状を確認したうえで、処方のみ対応などを実施いたします。

診察が必要な場合は屋外や別室にて診察対応等を実施いたしますので予めご了承ください。(時間指定有)

○定期処方薬ご希望の方に限りお電話での受付に柔軟に対応いたします。

医師の判断で可能な場合には、処方のみの方でも今回に限り長期(2ヶ月等)処方も承ります。

(原則として定期処方薬のみです。新規処方薬、希望薬は診察が必要です。)

(お問い合わせ・連絡先：診療所 TEL 57-2255)